

日野市
新たな学校づくり・社会教育施設づくり
検討委員会（第1回）資料

日野市教育委員会
令和5年8月4日（金）

- 1) 計画の目的と全体構成
- 2) 検討の背景
- 3) 日野市の学校施設の整備を取り巻く現状
- 4) 検討委員会での論点

1) 計画の目的と全体構成

1) 計画の目的と全体構成

計画を策定する目的

未来思考の視点をもって、新しい時代に求められる教育・学習空間づくりへの転換

- これまでの学校施設の老朽化や劣化度合いの観点のみによる校舎の更新だけではなく、新しい時代の教育内容の変化に対応した多様な学習形態に適した空間デザインの検討が必要。
- 河川や丘陵地、歴史文化、商業地など自然豊かな地形や多様な地域性を踏まえ、まちの発展や地域の実情に応じた行政ニーズへ対応するには、地域から期待される公共施設としての機能や役割の検討が一体不可分。

計画の全体構成

3つの構成要素より計画を策定

学校施設個々の整備にあたっての標準的なコンセプト

学校施設整備基本構想

日野市のこれからの学校のあり方や整備の進め方を示す計画

基本構想を具現化する空間や設備を具体化

機能別整備計画

整備すべき学校施設の空間や設備を機能別に具体的に示す計画

2つの方針に照らし、施設の諸条件に沿った各校における整備計画のパターン整理

個別施設計画

個々の学校の諸条件を類型化し、それを踏まえた具体的な整備計画パターンを示すとともに、整備スケジュールを短・中・長期で示す計画

● × 小学校の整備

基本構想・基本計画

個々の学校を整備する上で、地域の要望を踏まえ必要な諸室や面積を定義する計画

【改善】これまで学校施設個別に「基本構想・基本計画」を立案してきたが、左記に示す計画の策定により、一貫性のある学校施設・学習空間の整備が可能。

● × 学校整備工事開始

2) 検討の背景

2つの背景

1. 全国的な政策展開

- ・「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び・協働的な学び」の実現
- ・GIGAスクール構想に基づく1人1台端末による学習
- ・学級編成の少人数化（子ども一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導）
- ・学校施設のあり方の報告（すべての子どもたちの可能性を引き出す学び舎としての学校） ※後述あり
- ・既存施設を含めた学校施設のバリアフリー化における一層の推進 など

主体的な学び

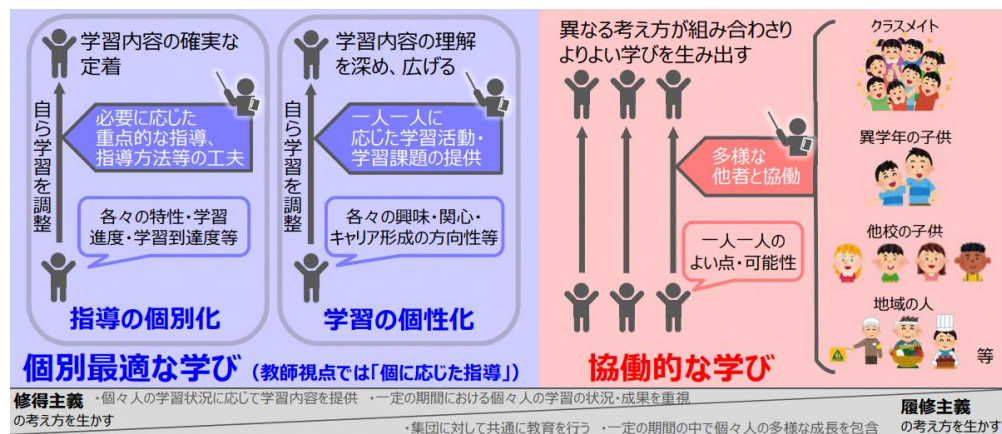
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう



2. 日野市の学校施設の整備を取り巻く現状

- ・学習空間の手狭さの解消、ICT機器の利活用による教育環境の充実、多目的スペース等への利用ニーズ
- ・市内学校施設の老朽化の進行に伴う学校施設の更新
- ・人口減少、少子高齢化に伴う将来的な財政負担を見越した公共施設の縮減の要請（全延床面積▲16%）
- ・将来的な児童生徒の在籍者数に応じた規模の検討や他施設との複合化など
- ・学校教育と親和性の高い社会教育施設の老朽化と今後のあり方の検討 など

1. 全国的な政策展開

～すべての子どもの可能性を引き出す学び舎としての学校～

- 文部科学省による報告書「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」では、学校施設全体が学びの場であり、教科横断的な学びや多目的な活動への対応を図り、時代の変化や社会課題に応じた可変性のある学校施設のあり方を打ち出した。
- 同報告書では、学校施設を考える視点として「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」という5つの柱を打ち出している。
- 同年に公表された報告書「これからの特別支援教育を支える学校施設の在り方について」では、特別支援学級や特別支援学校のあり方が言及されており、「障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶ場、多様な学びの場の整備」、「一人一人の教育的ニーズに応じた教育を支えるための施設の充実」などが挙げられている。

ii -1 関係: 多様な学習活動が展開できる空間



ii -2 関係: 学習活動に柔軟に対応できる多目的な空間



新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）



【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び** ≡≡≡ **個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現**
- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
 - ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
 - ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとり
のある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な
学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等
による教室空間の有効活用

- 生活** ≡≡≡ **新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現**
- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
 - ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化
- 共創** ≡≡≡ **地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現**
- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
 - ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

- 安全** ≡≡≡ **子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現**
- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
 - ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化
- 環境** ≡≡≡ **脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現**
- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
 - ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」概要版より抜粋

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく

学び



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンス」としていく姿

学び



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び



映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活



木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境

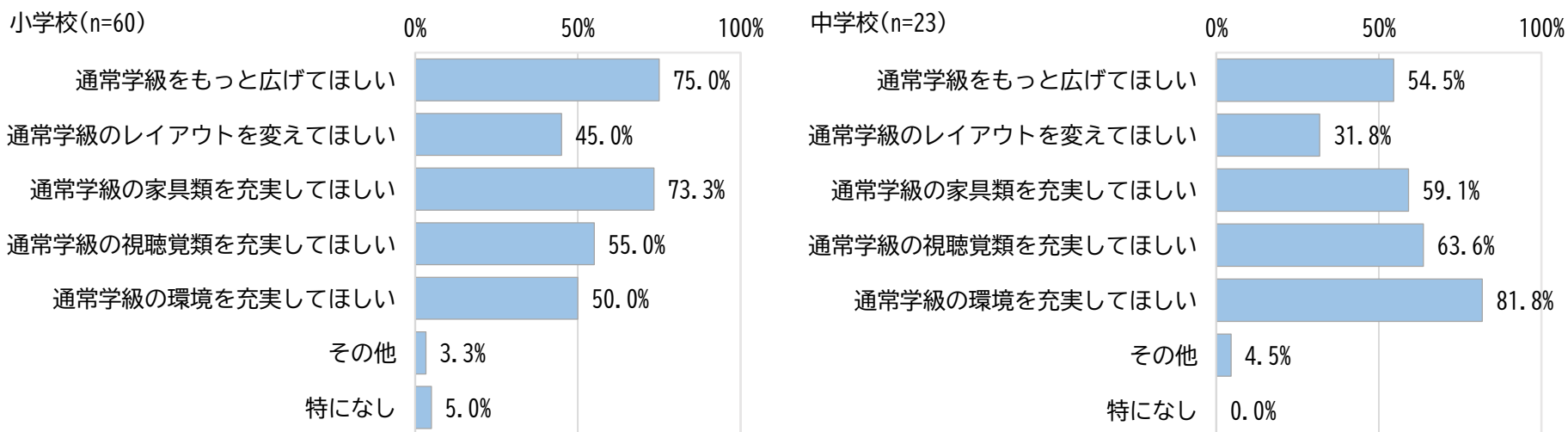


省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

3) 日野市の学校施設の整備を取り巻く現状

例) 通常学級と付帯する設備について特に整備すべき点 教員アンケートより (抜粋)

- 小学校では広さや家具が求められており、中学校では環境（照明、換気、空調）や視聴覚類が求められている。
- 自由回答では、学習者用端末に応じた広い机や、協働的な学びに適した教室の可変性・家具の可動性を求める意見が見られた。



通常学級と付帯する設備について特に整備すべき点



時代とともに手狭となる収納場所



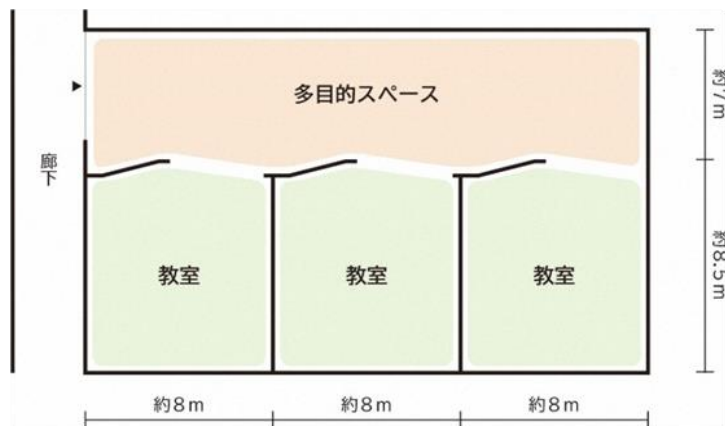
ゆとりのある学習環境の整備



照度が低く、薄暗い教室

現状の学校施設における特長① 平山小学校：学年別多目的スペース

- 平山小学校は学年ごとに多目的スペースと複数の教室のまとまりをつくっている点にある。廊下には多目的スペースが面しており、その奥に緩やかに仕切られるかたちで教室が配置されている。
- 壁の仕上げが吸音材となっているほか、緩やかな仕切りによって、オープンな教室の課題である音の問題が解消されている。
- ただし、多目的スペースと教室が一体化されているため、学級数の増加があった場合に対応しにくい点が課題と言える。



平山小学校の教室空間の構成



平山小学校の建築計画モデル



学年単位の多目的スペース



多目的スペースとの仕切り

現状の学校施設における特長② 夢が丘小学校：リノベーション

- 夢が丘小学校は、学校統合に際して既存校舎をリノベーションした事例である。
- 廊下の幅が広がったこともあり、廊下にベンチを設置するほか、展示や収納のためにも活用している。その他、アルコーブなど児童の居場所を空間に織り込んでいる。
- 学校図書館が廊下に対してオープンであり、児童にとって通いやすい空間となっている。



廊下での展示



トイレ前の手洗いスペース



廊下に面した書架



アルコーブ



廊下に面した低書架

現状の学校施設における特長③ 日野第一中学校：廊下の活用

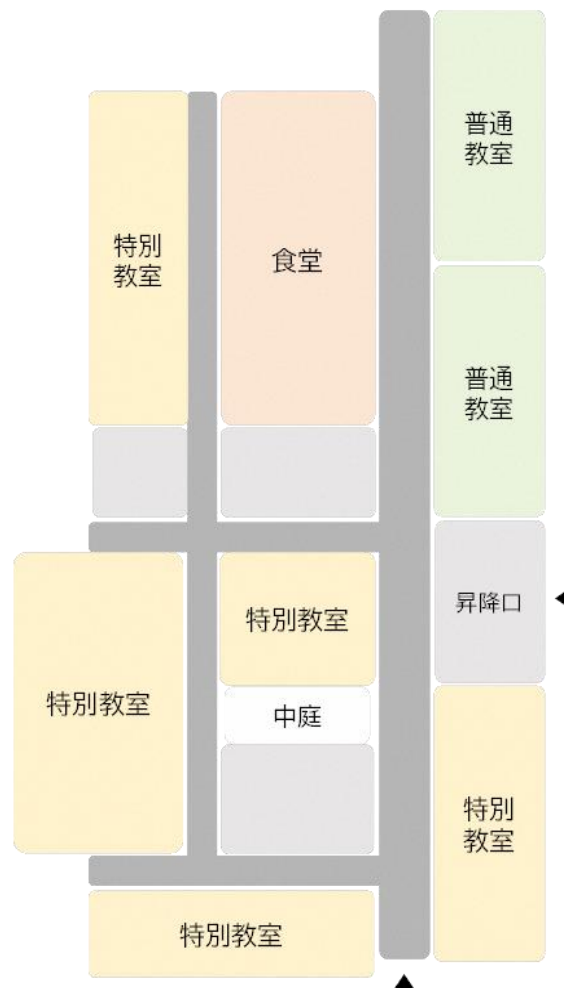
- 日野第一中学校は、普通教室が面する廊下の幅が広くなっており、オープンスペースとして活用可能となっている。
- 特別教室は普通教室とはゾーンとして分けられており、適度な距離感が保たれている。



普通教室前の廊下



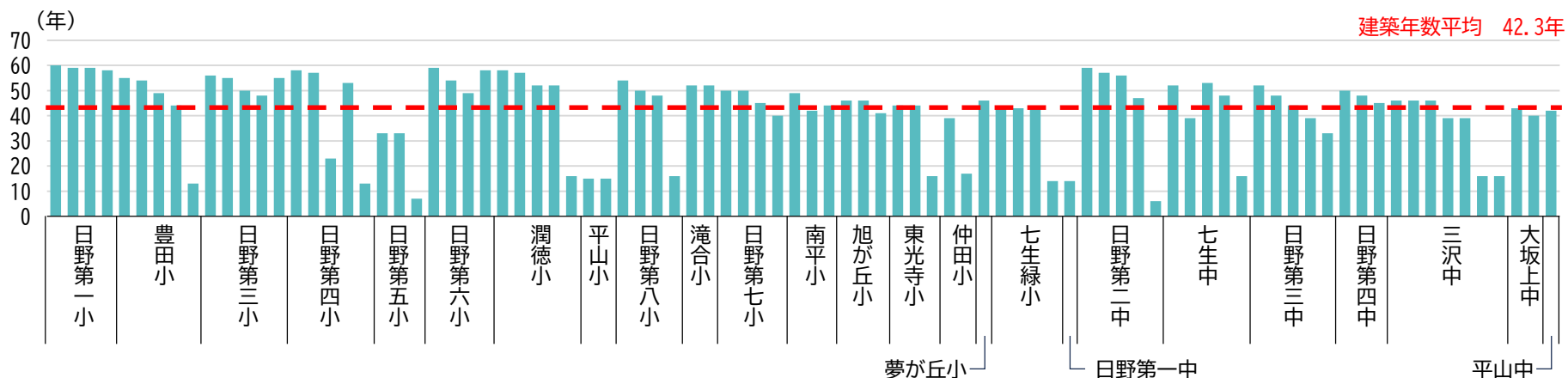
多目的室と奥の中庭



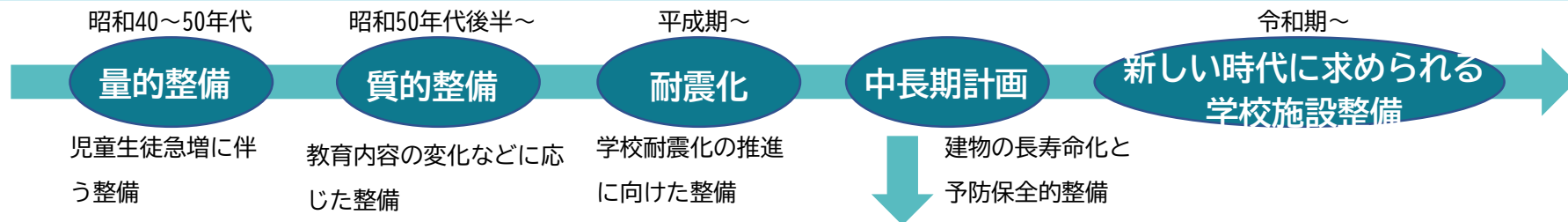
配置構成

多くの学校施設において老朽化が進行中

- 全体的に古い校舎が多くなっているなか、改築・改修の時期を見込んだ老朽化状況、及びコンクリートの劣化状況を評価（平成28年度）したところ、日野第一小学校をはじめ、築年数の長い校舎（棟）ほど、老朽化状況・劣化状況ともに課題がでている。



学校施設整備の変遷と今後の方向性



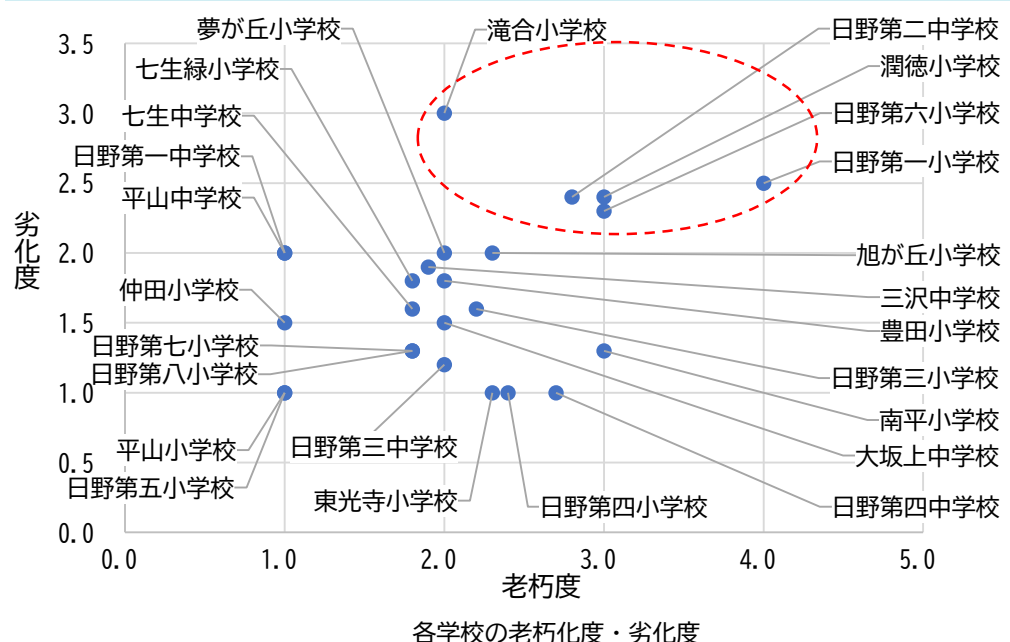
当市の学校施設整備

- ・小学校屋内運動場冷暖房設備設置事業・学校トイレ改修事業
- ・豊田小学校校舎大規模改造事業 など

3) 日野市の学校教育及び施設の現状

学校施設の老朽化・劣化状況、バリアフリー対応

- 平成28年度に策定した「学校施設の長寿命化及び改築等の整備に関する中長期計画」における校舎単位での老朽化状況・劣化状況の評価を用いて、各学校の老朽化状況・劣化状況を点数化した。
- 老朽化・劣化については、日野第一小学校、日野第六小学校、潤徳小学校、滝合学校、日野第二中学校が、いずれの項目における考察からも、施設の更新の順位が高いと言える。
- それら学校はいずれもエレベーターが設置されておらず、バリアフリー化を図る上での障壁は大きく、改修ではなく改築を選択すべき学校もあると考えられる。



学校名	老朽化度	劣化度	EVの有無
日野第一小学校	4	2.5	×
豊田小学校	2	1.8	○
日野第三小学校	2.2	1.6	×
日野第四小学校	2.4	1	○
日野第五小学校	1	1	○
日野第六小学校	3	2.3	×
潤徳小学校	3	2.4	×
平山小学校	1	1	○
日野第八小学校	1.8	1.3	○
滝合小学校	2	3	×
日野第七小学校	1.8	1.3	×
南平小学校	3	1.3	×
旭が丘小学校	2.3	2	×
東光寺小学校	2.3	1	○
仲田小学校	1	1.5	○
夢が丘小学校	2	2	×
七生緑小学校	1.8	1.8	○
日野第一中学校	1	2	○
日野第二中学校	2.8	2.4	○
七生中学校	1.8	1.6	○
日野第三中学校	2	1.2	×
日野第四中学校	2.7	1	×
三沢中学校	1.9	1.9	○
大坂上中学校	2	1.5	×
平山中学校	1	2	×

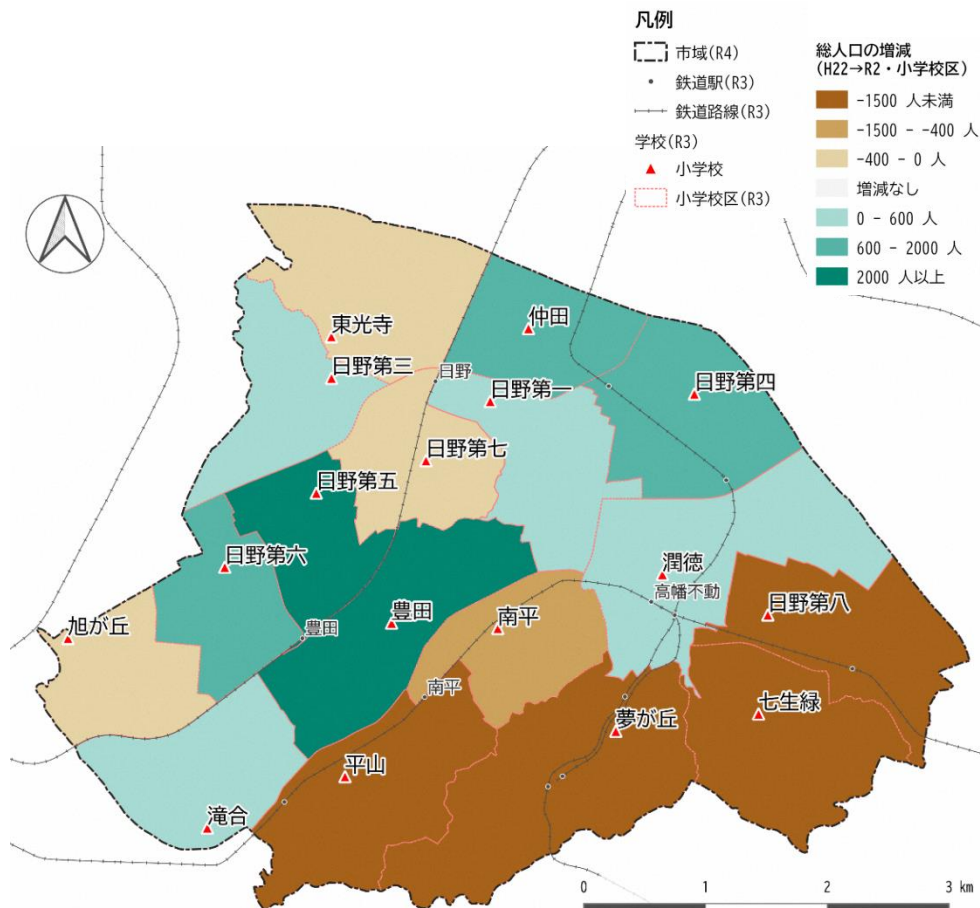
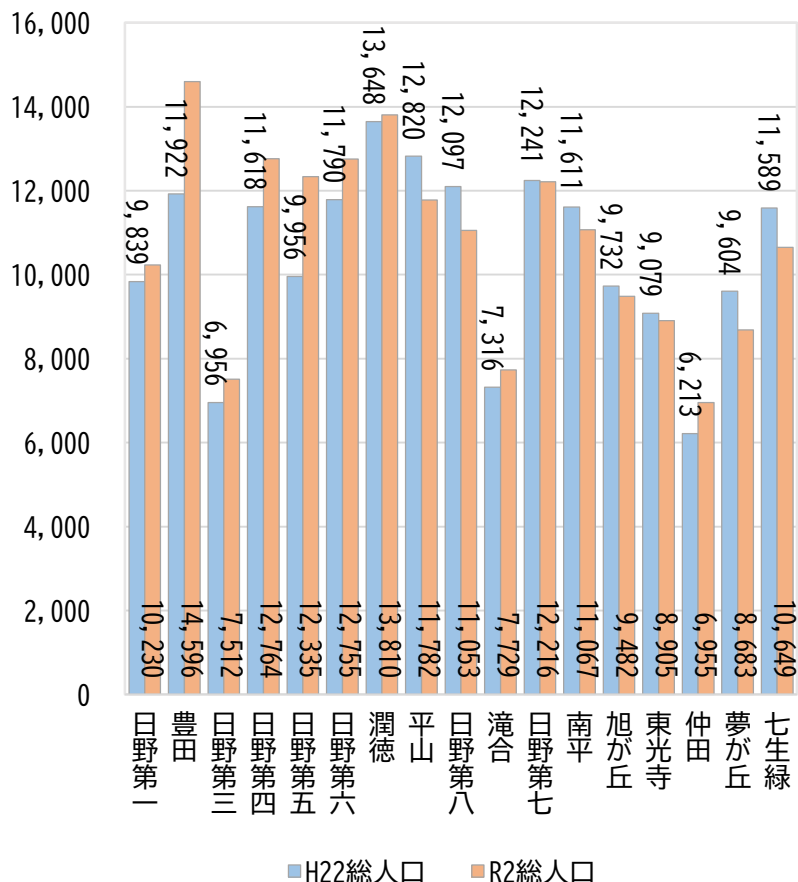
各学校の老朽化度・劣化度の評価及びエレベーターの設置状況

各学区の人口（小学校）

※平成22年～令和2年

- 豊田小学校区や潤徳小学校区の学区人口が特に多い。
- 仲田小学校・滝合小学校など市北側・南西側の縁辺部に位置する学区では、学区人口が少ない傾向にある。
- 推移をみると、JR豊田駅周辺の学区で特に増加傾向にある一方、丘陵部の学区では減少傾向にある。

(人)



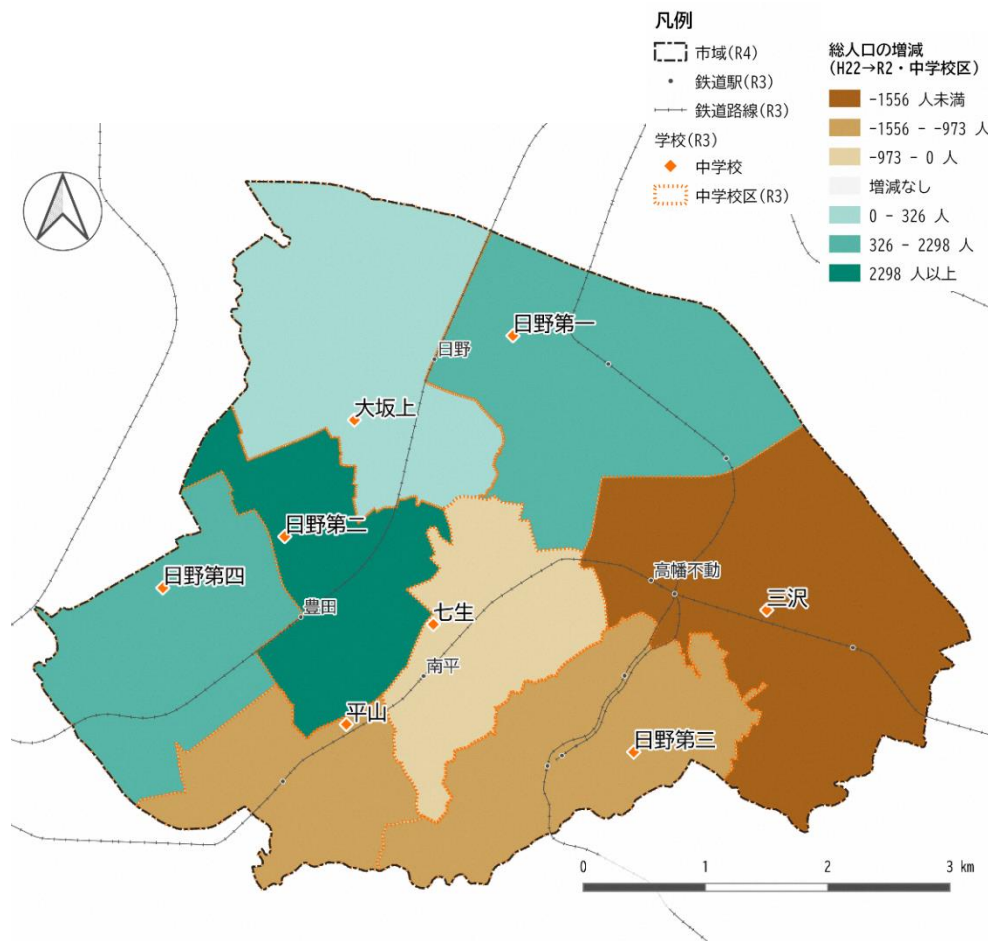
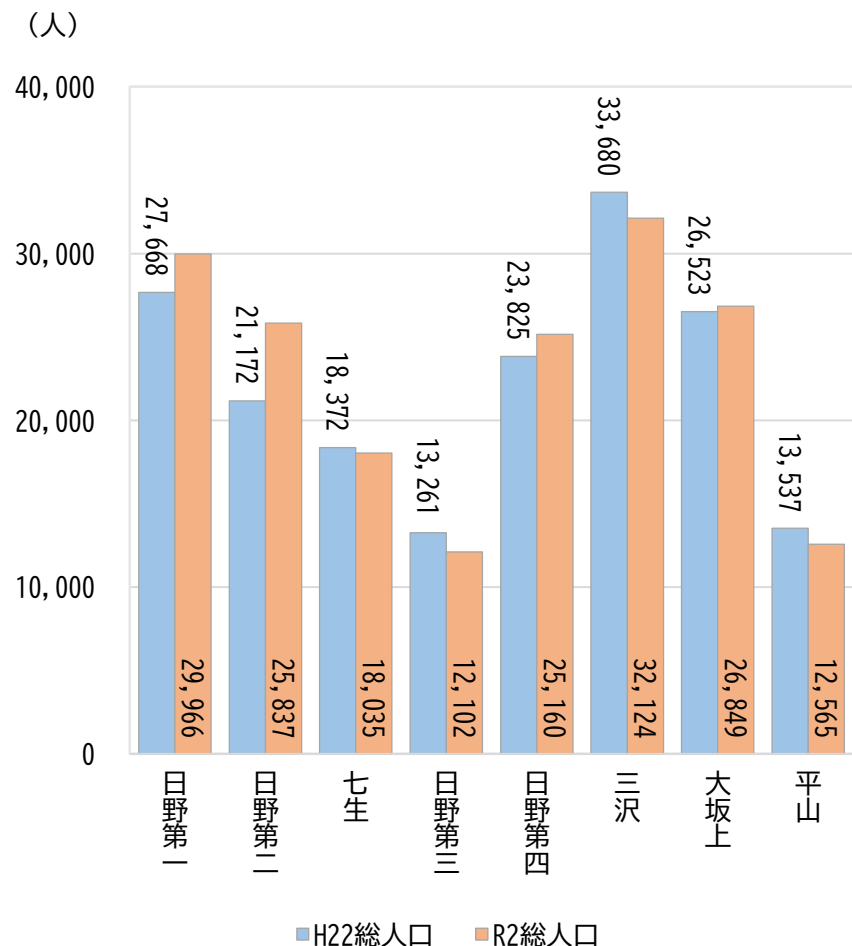
各小学校区内の総人口（出典：国勢調査／小地域内人口を面積按分して算出）

小学校区別の総人口の推移（出典：国勢調査／小地域内人口を面積按分して算出）

各学区の人口（中学校）

※平成22年～令和2年

- 三沢中学校区のほか、日野第一中学校区の人口が多い。
- 日野第三中学校など市南側の中学校区では、人口が少ない傾向にある
- 推移をみると、JR豊田駅周辺の学区で特に増加傾向にある一方、丘陵部の学区では減少傾向にある。



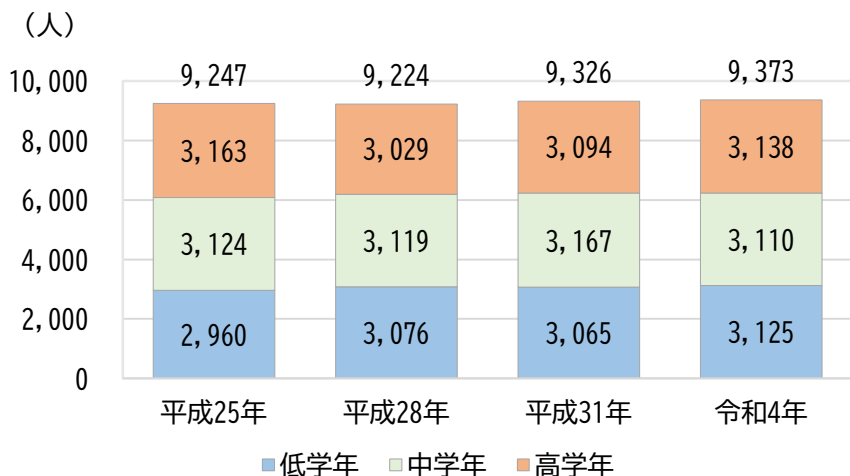
各中学校区内の総人口（出典：国勢調査／小地域内人口を面積按分して算出）

中学校区別の総人口の推移（出典：国勢調査／小地域内人口を面積按分して算出）

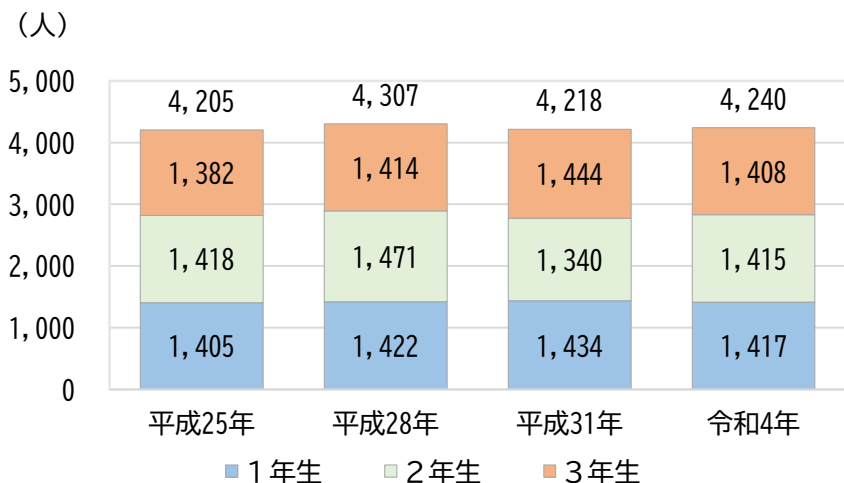
3) 日野市の学校教育及び施設の現状

児童・生徒数の推移 ※平成25年～令和4年

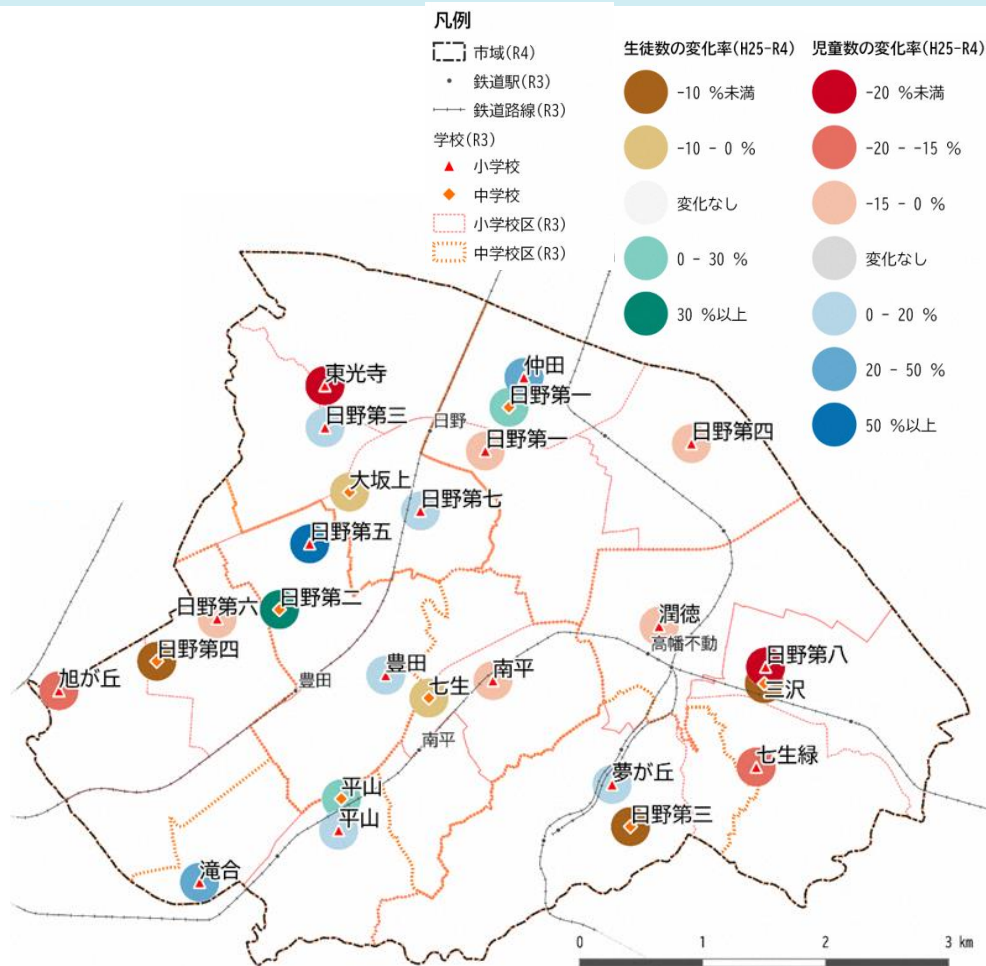
- 令和4年以前の9年間の推移をみると、児童・生徒総数ともに概ね同数で推移している。
- 学校別に児童生徒数の推移をみると、丘陵部や市北西側の縁辺部の学校で児童・生徒数が減少している。



市内小学校の児童数の現況と推移 (出典: 日野市学校課提供データ)



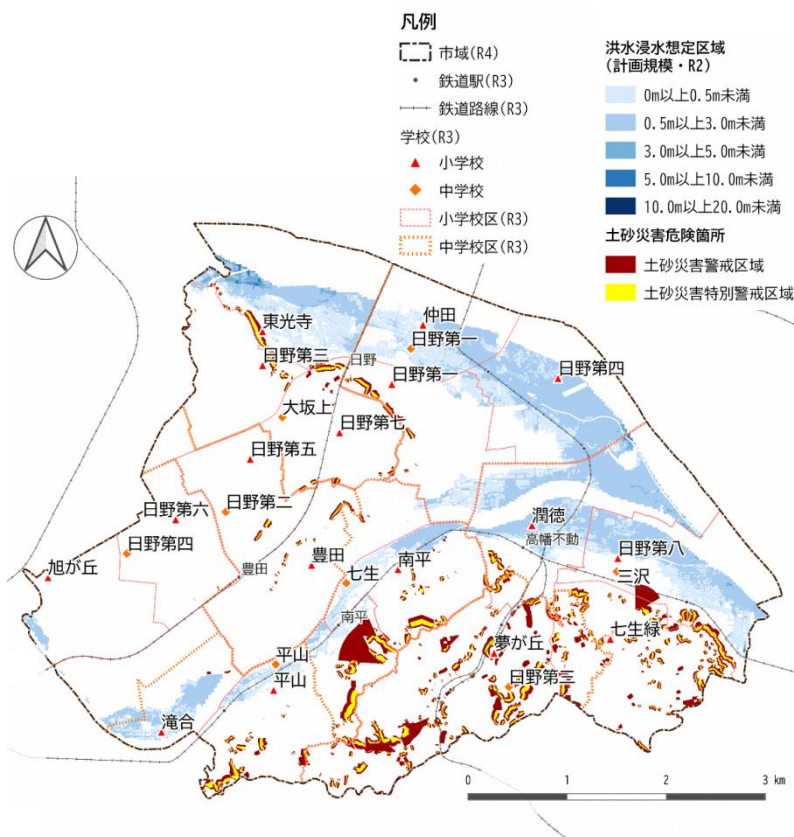
市内中学校の児童数の現況と推移 (出典: 日野市学校課提供データ)



平成25年から令和4年にかけての児童・生徒数の変化率 (出典: 日野市学校課提供データ)

災害リスク

- 洪水浸水想定区域をみると、多摩川・浅川周辺に概ね3.0m未満の区域が広がっている。
- 土砂災害危険箇所は、市内南側や日野駅の北西-南東の地域で指定されている。
- 小・中学校はいずれも指定緊急避難所及び指定避難所となっている。



土砂災害危険箇所と洪水浸水想定区域の分布 (出典：国土数値情報)

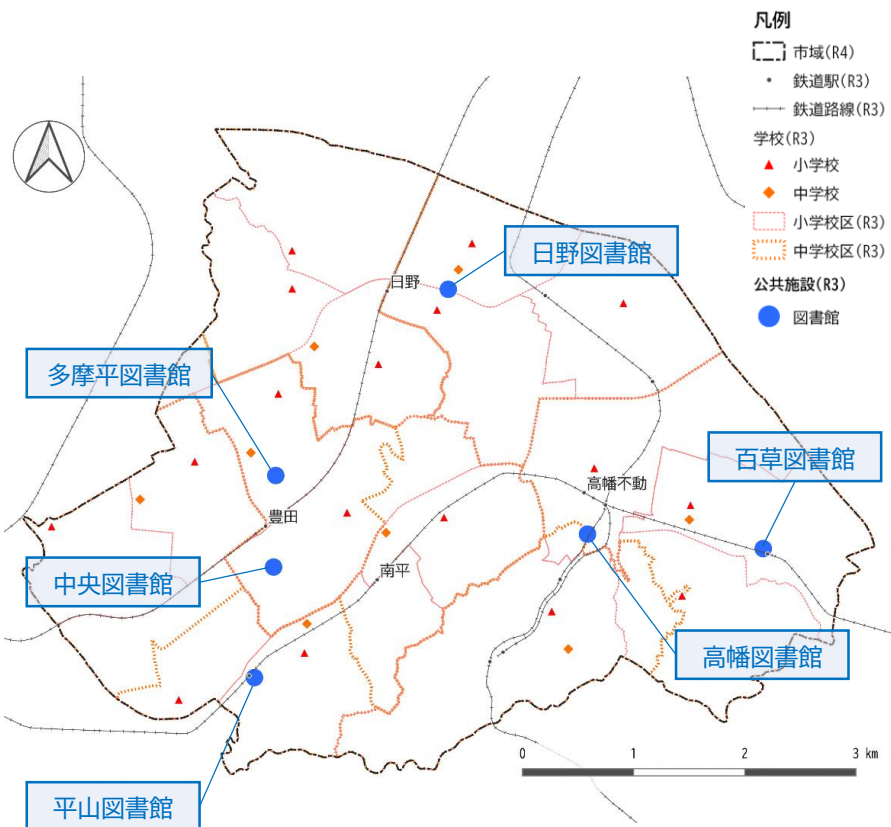
学校名	浸水リスク	土砂災害リスク	避難所の指定状況※	想定収容人数 (最大収容人数)
日野第一小学校	無	無	○	410(820)
豊田小学校	無	無	○	500(1,000)
日野第三小学校	無	有	○	530(1,060)
日野第四小学校	有	無	△	710(1,420)
日野第五小学校	無	無	○	580(1,160)
日野第六小学校	無	無	○	560(1,120)
潤徳小学校	有	無	△	540(1,080)
平山小学校	無	無	○	820(1,640)
日野第八小学校	無	無	○	530(1,060)
滝合小学校	有	無	△	500(1,000)
日野第七小学校	無	無	○	370(740)
南平小学校	有	無	△	510(1,020)
旭が丘小学校	無	無	○	510(1,020)
東光寺小学校	無	有	○	470(940)
仲田小学校	有	無	△	450(900)
夢が丘小学校	無	有	○	410(820)
七生緑小学校	無	有	○	540(1,080)
日野第一中学校	有	無	△	730(1,460)
日野第二中学校	無	無	○	530(1,060)
七生中学校	有	無	△	490(980)
日野第三中学校	無	有	○	570(1,140)
日野第四中学校	無	無	○	710(1,420)
三沢中学校	無	無	○	740(1,480)
大坂上中学校	無	無	○	520(1,040)
平山中学校	有	無	△	670(1,340)

※△は洪水時の指定緊急避難場所に指定されていないことを示す。

各学校の災害リスクと指定避難所・指定緊急避難場所の指定状況 (出典：洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ、日野市地域防災計画【資料編】)

図書館

- 市立図書館は市内に6館（市役所本庁舎内の市政図書室を含むと7館）あるほか、移動図書館の巡回が行われている。
- 令和3年4月5日から8日にかけての4日間（火曜～金曜）の時間帯別貸出者数をみると、いずれの図書館においても午前中が最も多く、14時から16時の間や16時から18時の間が多い。
- 中央図書館や高幡図書館、日野図書館は築年数が40年以上であり、老朽化対策が必要であると言える。
- 公共施設等総合管理計画では、日野・高幡図書館の改修・複合化・多機能化等を進めることとしている。

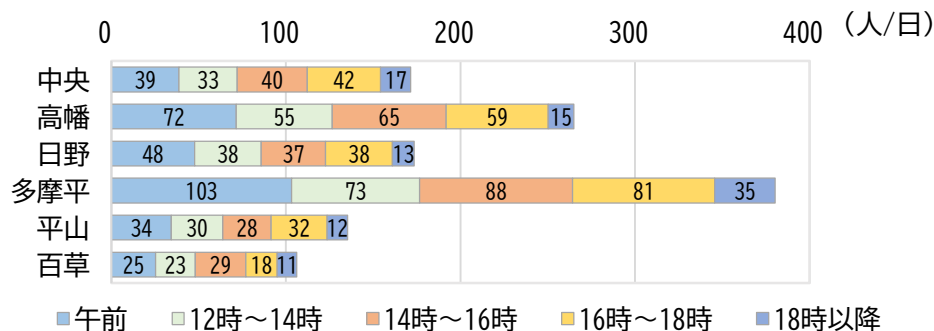


図書館の分布（出典：日野市オープンデータ）

図書館名	構造	延床面積	築年数	延べ貸出者数	学区域
中央図書館	RC造	2,220㎡	49	69,259人	豊田小・第二中
高幡図書館	RC造	1,358㎡	42	79,526人	潤徳小・第三中
日野図書館	RC造	422㎡	42	59,078人	仲田小・第一中
多摩平図書館	RC造	856㎡	18	122,052人	第五小・第二中
平山図書館	RC造	412㎡	14	41,605人	平山小・平山中
百草図書館	RC造	759㎡	32	32,204人	第八小・三沢中

※建築年度・築年数については、現在の建物の情報を掲載している。
 ※延べ貸出者数については、令和3年度の年間延べ貸出者数を掲載している。
 ※多摩平図書館及び平山図書館は複合化施設であり、百草図書館は賃貸施設である。

図書館施設の状況（出典：令和3年度社会教育のあらまし）

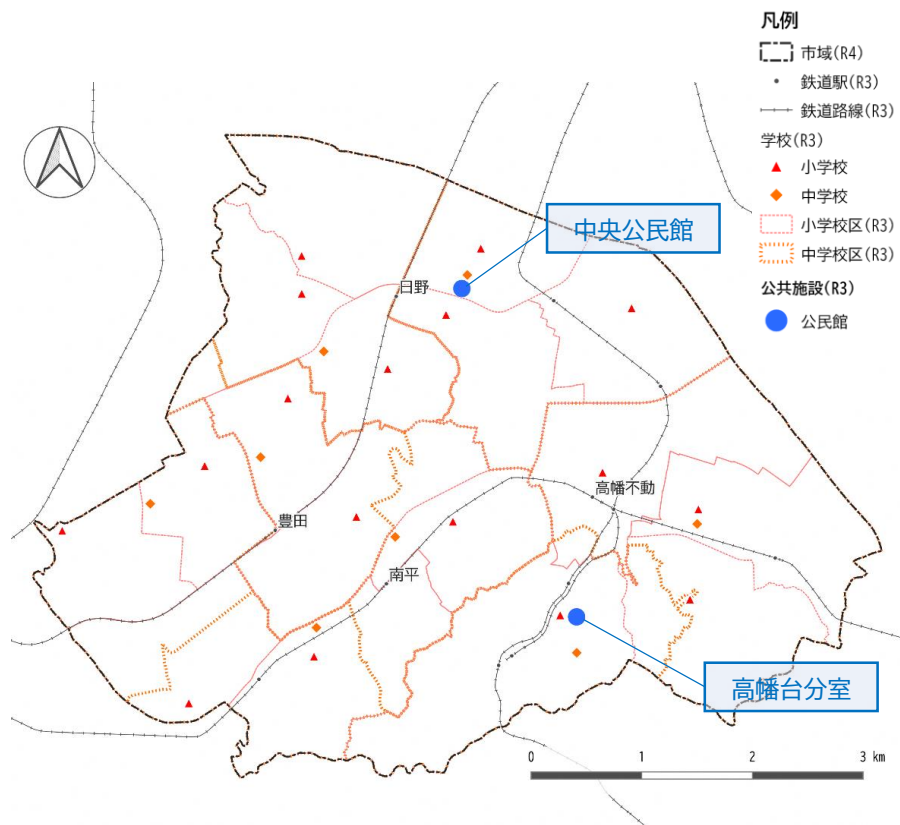


平日（令和3年4月5日～令和3年4月8日）の時間帯別平均貸出者数
 （出典：日野市図書館提供データ）

公民館

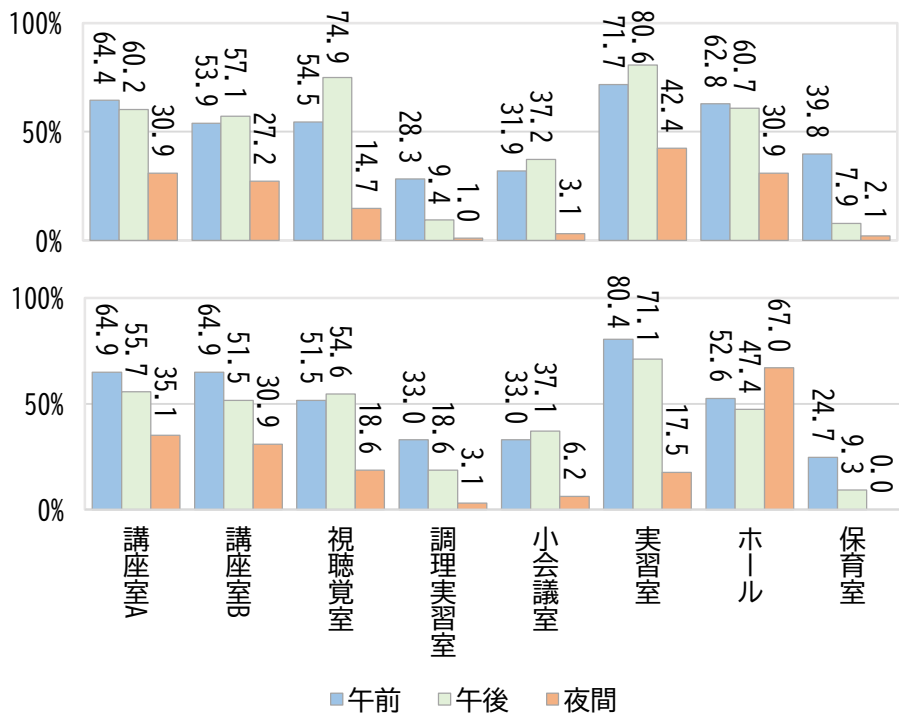
- JR日野駅の東側に中央公民館が立地しているほか、高幡台団地内に高幡台分室が立地している。
- 中央公民館の稼働率をみると、いずれの諸室も午前・午後の利用が多く、夜間の利用は少ない。
- 中央公民館・高幡台分室ともに築年数がおよそ50年であり、建物の更新期を迎えつつあると言える。

図書館名	構造	延床面積	築年数	延べ貸出者数	学区域
中央公民館	RC造	704㎡	57	16,626人	仲田小・第二中
高幡台分室	RC造	953㎡	49	14,143人	夢が丘小・第三中



公民館の分布 (出典: 日野市オープンデータ)

公民館施設の状況 (出典: 令和3年度社会教育のあらまし)



中央公民館の曜日別時間帯別稼働率【上: 月曜～金曜、下: 土曜・日曜】
(出典: 日野市中央公民館提供データ)

公共施設マネジメントの展開

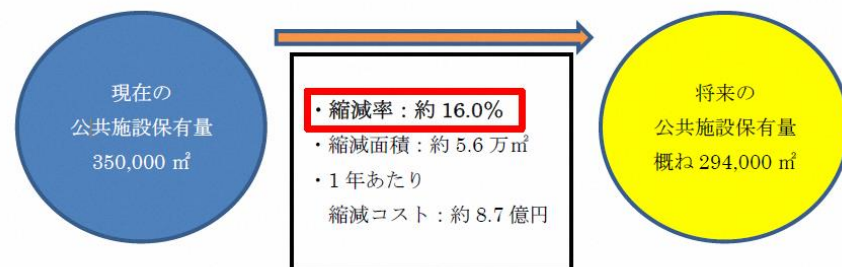
公共施設全般の管理に関する基本的な方針

- ①市民や利用者の安全を最優先にすること
- ②中期的な都市構造、人口構造、財政状況を踏まえた計画策定を行うこと
- ③公共施設の総量の縮減の目標値を設定し、総量縮減の必要性を意識した取り組みを実施すること
- ④まちづくりを踏まえた公共施設等のマネジメントを実施すること
- ⑤民間活力や市民協働を積極的に採用すること
- ⑥全庁的な体制で計画を遂行すること

学校施設の管理に関する考え方

- 「学校施設の長寿命化及び改築等の整備に関する中長期計画」、「(仮称)新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画」に基づき維持管理・更新
- 他の公共施設との複合化を検討
- 児童生徒数の動向を踏まえて適正規模、適正配置についても検討
- 学校プールは民間施設や他の公共施設等の屋内プールを活用し、維持管理経費を削減

③公共施設の総量の縮減の目標値を設定し、総量縮減の必要性を意識した取り組みを実施すること
本市では本計画を着実に遂行していくために、延べ床面積を 16%縮減 します。



そのため、今後は公共施設の縮減、施設の必要性や所有形態の見直しの検討を進めると同時に、複合化・多機能化・広域化などによる公共施設の管理運営費の削減に取り組みます。

なお、道路・橋梁・下水道・公園といったインフラについては、市民の生活に不可欠な資産であることから縮減目標は設定しませんが、公共施設の更新費用の不足額を補うため、公共施設等の管理に関する具体的な実施方針及び施設類型ごとの管理に関する基本的な方針を踏まえ、適切な維持管理を実施していくこととします。

短期目標（令和5年度～令和9年度）

- ▶ 小学校屋内運動場冷暖房設備設置事業
- ▶ 学校トイレ改修事業
- ▶ 豊田小学校校舎大規模改造事業
- ▶ 日野第一小学校の改築に向けた基本構想・設計等

中期目標（令和10年度から令和14年度まで）

- ▶ 日野第一小学校の改築
- ▶ 他の公共施設との複合化や適正規模・適正配置

4) 委員会での論点

建築計画に関する検討課題（基礎調査報告書より）

■普通教室（通常学級）

- 適正な教室の広さの検討
- 学年の違いを考慮した、適切な教材・教具の収納あり方の検討
- 教育の多様性を引き出すオープンスペースや多目的スペースの確保
- 教科センター方式の導入を見据えた、各教室の適正な配置の検討

■普通教室（特別支援学級）

- 教育活動の類型化と各々に適応した広さの検討

■普通教室（特別支援教室/ステップ教室）

- ステップ教室に必要な諸機能の最適な面積の検討
- 教材・教具を収め、児童・生徒のプライバシーも保護する収納の検討
- 児童・生徒の特性に応じた環境性能を可能にする可変性に富む設備・建具の検討
- 多様性に対する受容促進と個々のプライバシー保護を両立する配置・動線計画の検討

■その他児童・生徒のためのスペース

- クールダウンスペース：児童・生徒の状況の程度に応じた段階的なクールダウンを可能とする空間の設置、ないしは諸室の活用に関する検討

■学校図書館（PCルーム含む）

- 資料を活用した協働学習等、学習の場としての設えの検討
- 児童・生徒が訪れやすく、使いやすい配置計画や空間構成の検討
- 教育活動へのメリット・デメリットを踏まえた公共図書館との複合化の可能性の検討

■体育館

- 校内最大の多目的スペースと捉えた場合に必要となる設備の検討
- 適切なパーソナルスペースの確保を条件とした、避難所として必要とされる面積

■プール

- 学校プールの集約化の検討

■その他特別教室

- 各教室の機能に応じた設えの検討
- 機能的に類似する教室の統合のあり方の検討
- 地域への一般開放等の柔軟な利用の可能性の検討

■職員室

- 適正なワークスペースとしての検討
- 教職員の居場所と捉えたファシリティの検討

今後の学校教育施設や社会教育施設で期待すること（理念やコンセプトなど）

■教育・学習環境

- 充実した学習環境施設
- 教育の場として魅力的であること
- 状況に応じて使い方を变化させられる汎用性が高い作りをしていること

■安全性・快適性

- 児童生徒等が安全に、健康的で快適な環境で過ごせる学校施設
- 子ども達の安心安全第一

■職員の働きやすさ

- 子どもを取り巻く大人達にとっても心理的安全な職場

■地域の活動拠点

- 幅広い年代、地域の方々から愛される場所
- 地域の運動、音楽、芸術活動の拠点
- 地域に開かれた施設
- 多様性に配慮し、地域に暮らす様々な人にとって開かれた施設であること
- 学校を核とした地域づくり、公共施設づくりと人にやさしいまちづくりの実現
- 学校と地域・市民が効率的・有効的に活用できる学校
- 地域コミュニティの拠点としての学校施設の活用
- まちの誇りとなるような学校施設
- 気軽に足を運べる場所

■地域や住民との交流

- 重症心身障害のある方やご家族と交流できる場所併設
- 学校と地域・市民が共用し交流できる学校
- 高齢者・特別支援を要する市民・子供と交流できる学校
- 子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる場所

■インクルーシブ

- インクルーシブ、差別のないみんなにとって居心地のよい場所

■防災拠点

- フェーズフリーの概念を取り入れ、継続的に活用できる居場所づくり
- 学校・地域・市が連携し、日常から取り組む防災拠点「学校」
- 災害時の避難所として正常に機能する施設
- 防犯・防災に強い学校

■環境への配慮

- 環境に配慮した施設・空間
- 地球環境を大切にし、地域の環境保全・資源を有効利用する学校

■管理・運営

- 自治体経営の視点から総合かつ統括的な管理、活用

学校施設に対する気づき（検討課題、今後あってほしい姿など）

■教室の様子

- 机周辺の乱雑さを解消できるような収納スペース
- 子どもたちの日常にあふれた、教材・教具、日常生活品における収納・家具の充実

■教室やその他諸室の充実

- 校庭と接続した多目的ルームの設置
- 規格にこだわらない広いスペースの教室・体育館・運動場の設置。
- 屋上の有効利用・活用を工夫する。

■学校図書館

- 図書館の活用率があがるための方策と創意工夫
- 最近の図書館で見受けられる、自習机のような学習スペース

■児童の特性への配慮・対応

- 誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインの学校
- 登校しぶり、発達障害などの困り感を持つ児童の居場所となりうる空間の確保
- クールダウン室の充足。

■バリアフリー化

- 多様な子どもたちの生活を意識した学校施設のバリアフリー化の促進
- 車椅子等のバリアフリー対応の促進

■地域開放

- 音楽室や図書室などの地域開放と共用化
- 車椅子バスケットなど障害者競技を意識した諸室や機能の整備
- 市内全小学校に設置されている「放課後子ども教室」に対応した多目的・多機能なスペース
- 学校施設の地域開放にあたって動線や施設の管理責任の明確化・地域開放による学校・地域との新たな関係の構築
- 地域の中核施設となりうる学校施設の配置

■セキュリティ

- セキュリティー強化→入口や施設内警備員配置など
- 不特定多数の利用者を意識したセキュリティ対策。

■避難所機能

- 安心して利用できる避難所機能
- 災害時における食料の確実かつ効率的な確保

■環境への配慮

- 校庭の緑化による熱中症対策
- 自然エネルギーの活用と電力の安定供給

計画検討における論点と委員会で論点

— は検討本委員会で取り上げたい
論点

1) これからの時代の学校に必要な機能・諸室

【キーワード：オープンスペース、多目的スペース、特別教室、廊下、クールダウンスペース、少人数授業】

2) 新しい学習形態に対応した学習環境

【キーワード：協働学習、ICTを活用した学習、教室空間、収納、オープンスペース、情報環境】

3) 児童・生徒の特性を踏まえた多様な環境

【キーワード：インクルーシブ、ステップ教室、特別支援教室、クールダウンスペース、保健室登校】

4) 大小様々な規模の「集い」に対応した環境

【キーワード：オープンスペース、多目的スペース、体育館、アルコーブ、廊下、ベンチ】

5) 学校教育を深化・充実するための特別教室

【キーワード：学校図書館】

6) 教職員の働きやすさの向上と地域連携を推進する管理機能

【キーワード：教員のワークプレイス、地域協働のためのスペース】

7) 複合化・共用化も見込んだバリアフリー化

【キーワード：既存施設での対応、地域開放施設としてのバリアフリー化】

8) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化

【キーワード：学校図書館の開放、特別教室の共用、プール、セキュリティ、バリアフリー、管理・運営体制】

9) 避難所としての学校施設

【キーワード：災害リスク、体育館、バリアフリー、セキュリティ、管理・運営体制】

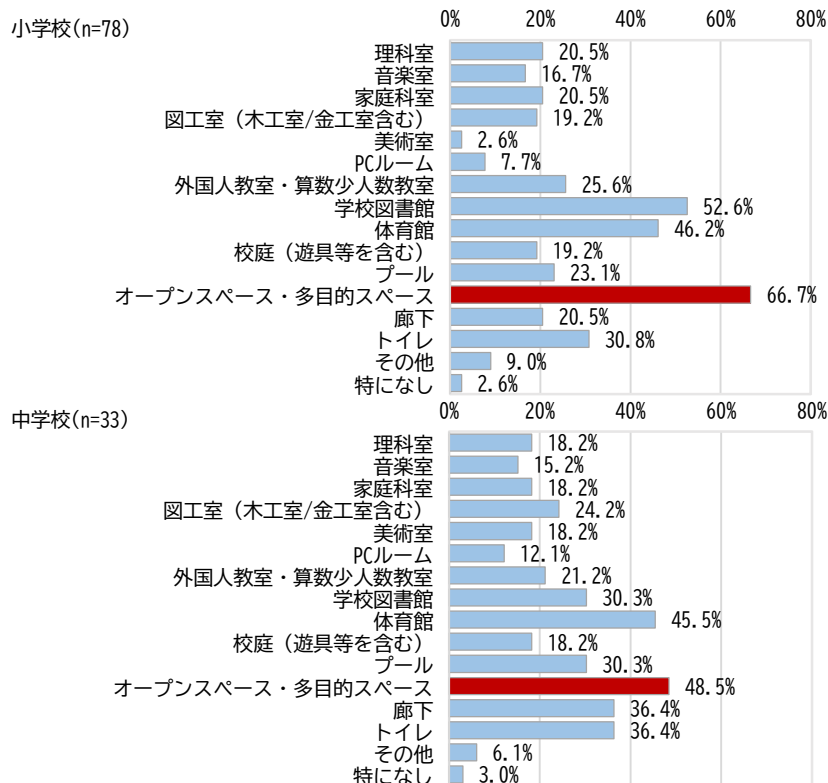
10) 快適性向上と環境負荷軽減を両立した設備

【キーワード：空調、照明、エコスクール、木質化、環境教育】

論点1) これからの時代の学校に必要な機能・諸室

これからの学校教育や児童・生徒の暮らしに必要な機能・諸室を整理し、標準リストを作成

- 小学校・中学校ともに多くの教員がオープンスペース・多目的スペースを求めている。
- 現在、算数は少人数制の授業が行われ、英語もリスニングのため特別教室が設けられつつある。
- 児童・生徒が気持ちを落ち着けるクールダウンスペースや多様な登校形態に対応した保健室など、従来の学校施設では必要とされてこなかった機能も求められつつある。
- これらの現状を踏まえ、小学校・中学校それぞれにおいて必要な機能・諸室を整理し、日野市の学校施設において共通して設けるべき機能・諸室のリストをつくり、標準化を図る。



特別教室などと付帯する設備について特に整備すべき点

特別教室のあり方に関する教職員の意見

- 外国語教室や算数少人数教室は、通常の教室とは異なる教材等が完備されていると便利であるだろうと感じる。(小学校教諭)
- 外国語指導は、各教室で行うのではなく特別教室(専科教室)があると学びやすい。(小学校校長)
- 前まではPCルームはPCを使うための教室であったが、現在は他の教科でも当たり前PCを使って何かを考えたり、人と話し合ったりしているため、そもそも必要がないのではと感じる。(小学校教諭)

オープンスペースや廊下に関する教職員の意見

- オープンスペースがない学校があり、あってもただの空き教室であるだけで、意図したレイアウトがなされていない。(小学校教諭)
- 廊下、オープンスペースは、教室とつながる自由な学びの場にも使えるよう環境を整えてほしい場所である。(小学校教諭)

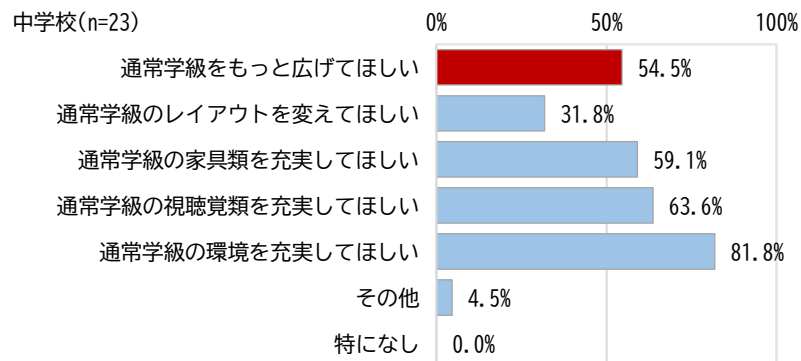
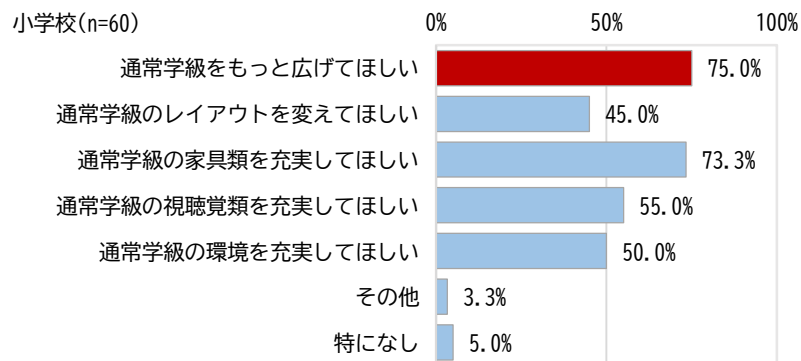
児童・生徒の耐用性に対応した諸室に関する教職員の意見

- 個別に対応する生徒や不登校生徒を個別対応するためのスペースが必要と考えるため。(中学校教諭)

論点2) 新しい学習形態に対応した学習環境

協働学習や個別最適な学習が実現できる学習環境としての教室及び周辺諸室を空間的に計画

- 学習者用端末の活用やグループワークの頻度が増えたことで、多くの教員が教室の広さや机のサイズに課題を感じている。
- 様々な教材を用いる物品の収納が十分ではなく、教室のスペースをさらにひっ迫している。
- タブレット端末や大型ディスプレイの活用など、情報環境を活用した授業の実施が求められている。
- 協働的な学びを行う上では教室のみならず、教室に面する廊下にて学習が展開されるほか、オープンスペース・多目的スペースも活用することが望まれている。このことから、教室を中心として廊下やオープンスペース・多目的スペースをどのように配置するべきか検討する必要がある。



通常学級と付帯する設備について特に整備すべき点

教室や机のサイズに関する教職員の意見

- 多様な学びを実現する上では、現状の教室スペースではやはり狭いです。よりスマートな収納が確保されており、自由自在に使える空間が少しでも広いことが大切だと思います。(小学校校長)
- クロムブックを利用することになり、机の上が狭くなってしまった。(小学校副校長)

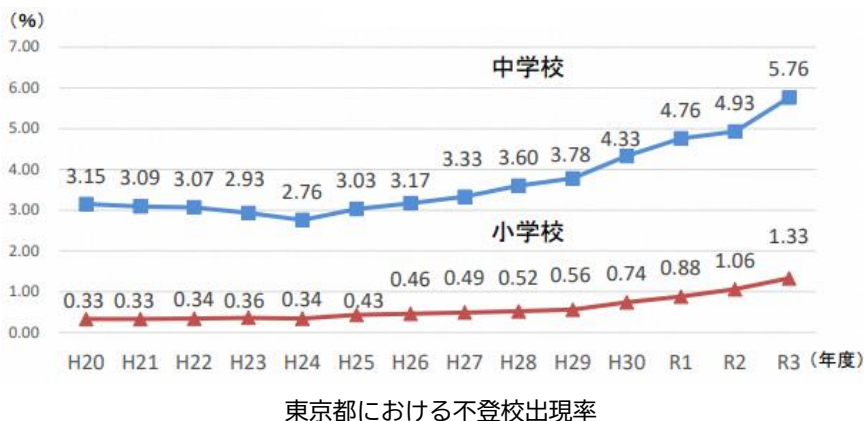
情報環境に関する教職員の意見

- 教室内に据え置きのプロジェクター(天井設置)、ホワイトボード(電子黒板)があるとよい。(小学校校長)
- 廊下は、歩くためだけのスペースではなく、児童が休憩したり、話し合いをしたり、勉強したり等様々な目的を持って集える場所になりたい。(小学校校長)
- オープンスペース、多目的スペースがあれば、様々な学習に合わせた活動がしやすい。(小学校教諭)

論点3) 児童・生徒の特性を踏まえた多様な環境

児童・生徒の特性を踏まえた多様な学び場・居場所を空間的に計画

- ステップ教室の大半が既存の教室を改装しており、個別学習や体を動かす集団行動などのステップ教室固有の学習活動に適した空間となっていないことが教員から指摘されている。
- 特別支援教室のあり方も含め、児童・生徒に日々接している教職員に協力いただき、ステップ教室及び特別支援教室に求められる空間のあり方を検討する必要がある。
- そのほか、情緒が安定しない児童・生徒が気持ちを落ち着かせるためのクールダウンスペースや、不登校生徒が学ぶための場所を確保することが必要となっている。
- インクルーシブな学びと育ちの環境を構築するため、児童・生徒の特性に配慮した多様な学び場・居場所を検討する必要がある。



「小学校施設整備指針」(文部科学省)では、「特別の支援を必要とする児童のための指導上必要なその他の空間として、通常の学級に在籍する情緒障害、自閉症やADHD等の障害のある児童が落ち着きを取り戻すことのできる小規模な空間を普通教室等に隣接又は近接して計画することが望ましい」とした上で、普通教室においても準用することが望ましいとされている。

ステップ教室、特別支援教室に関する教職員の意見

- 小集団指導と個別指導が充実してできるように面積を広げる、個別ブースを効果的に設置するなどの見直しをしたい。(小学校校長)
- ステップ教室出入りを気にする生徒が出入りし易い校舎内における教室配置の改善が必要である。(中学校校長)
- 特別支援学級の学級増対応のため、半教室分で1学級の教室設定になっている学校があるが、学習スペースの保障、換気的面からも今後は余裕のある配置にしてほしい。(小学校校長)

児童・生徒の特性を踏まえた機能・諸室に関する教職員の意見

- 不登校生徒の学びの保障のための居場所づくりが必要。在籍学級での学習に抵抗感を持つ生徒の居場所づくりとして。(中学校教諭)
- 情緒面で課題のある児童がクールダウンできるスペース、SC、SSW、子供家庭センター等と面談できる相談室は発達的な課題のある児童、関係機関と継続的に対応するために必要。(小学校校長)
- 保健室が複数ほしい。1つは通常の保健室機能。もう1つは不登校児童対応機能。(小学校校長)

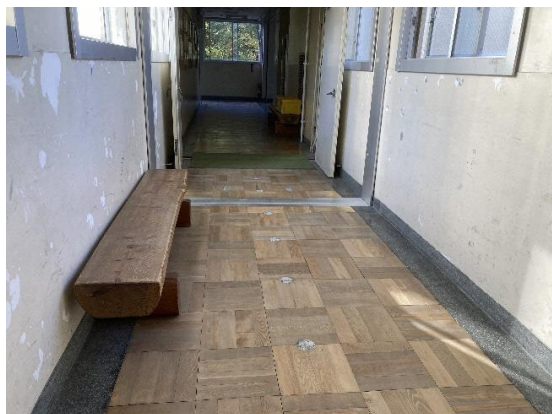
論点4) 大小様々な規模の「集い」に対応した環境

学習にとどまらず、学校行事や休み時間の児童・生徒等が過ごす場所を空間的に計画

- オープンスペース・多目的スペースは、学習環境だけでなく、児童・生徒が休み時間に過ごす場所としても期待されている。さらに児童・生徒や教職員の交流、地域交流の場としても求められている。
- 体育館も、体育のためだけでなく、様々な集まりのために用いることのできる場所とみなされている。
- 教室まわりの廊下やオープンスペースだけでなく、学校施設全体において、様々な目的で児童・生徒等が集い、交流することのできる場所について検討する必要がある。



夢が丘小学校の小スペース



潤徳小学校の廊下のベンチ

オープンスペースや廊下に関する教職員の意見

- 放課後や昼休みのわずかな時間の憩いの場としてのオープンスペース・多目的スペースがあってもいいと思います。(小学校教諭)
- 子供たちが集まって気軽に話し合い活動ができるようなオープンスペースがあるとよい。(小学校副校長)
- 廊下は、現状の活用のイメージであれば難しいと思うが、オープンスペースの学校のようにもう少し広く場所をとれるのであれば、交流の場所として活用できるかもしれないと思う。(小学校教諭)
- 休み時間に、自席以外で落ち着ける場所、椅子があるとよい。(小学校教諭)
- 児童、教職員が自由に集まり談笑できる場があるとよい。地域にも開放できる。(小学校校長)

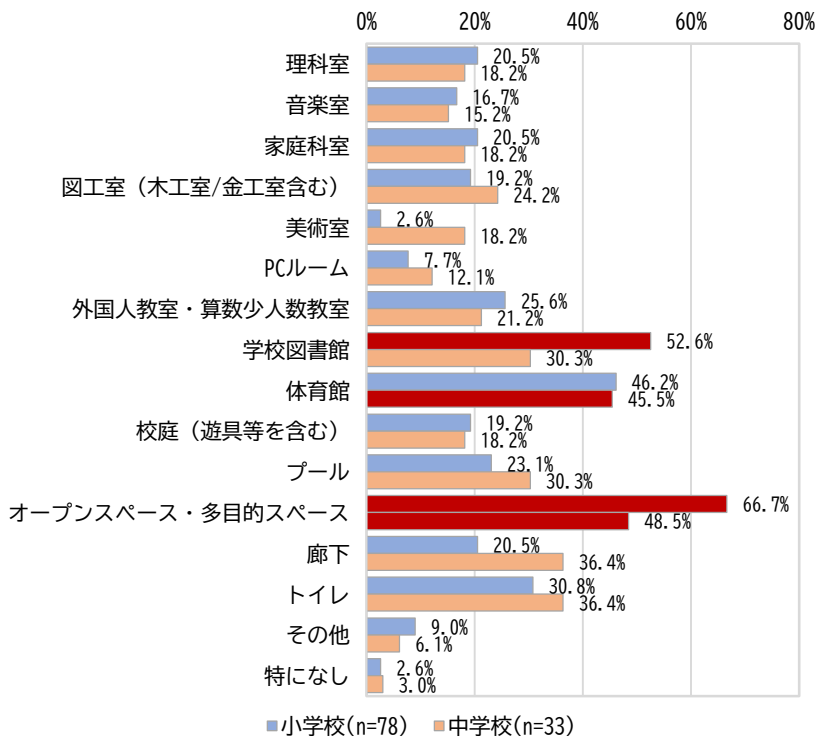
体育館に関する教職員の意見

- 体育館には据え置きのプロジェクター、スクリーンを設置できるとよい。(小学校校長)
- 体育館の壁に大型モニターがあると、様々な催し物に効果がありそう。(中学校校長)

論点5) 学校教育を深化・充実するための特別教室

学びを支える学校図書館や特別教室の環境や設備について空間的に計画

- 特別教室は体験的な学習にとって重要な場所であり、時代にあわせたレイアウトや設備の充実を図り、学びやすい環境の形成が必要である。
- 特別教室のうち学校図書館への期待は高く、本を読む場所にとどまらず、調べ活動やグループワークなど、多様な学習形態に対応したあり方が求められている。
- このような時代のニーズに応じた特別教室のあり方について、特に設備の面にも目を配りながら検討する必要がある。



特別支援学級と付帯する設備について特に整備すべき点

特別教室に関する教職員の意見

- 実技教科は体験的な学習を充実させることが要であり重要である。広い空間や扱える教材や器具の充実が肝要である。(中学校校長)
- 教科によって使いやすい仕様がきつとあると思うので、時代の変化とともに教室のレイアウトも変わっていきけるとより子供たちが学びやすい環境になるのではと思いました。(小学校教諭)
- 理科離れが言われている昨今なので少しでも興味が湧くように手立てを打つことは大切だと考える。(小学校教諭)

学校図書館に関する教職員の意見

- 授業中に必要に応じて自由に利用できる図書スペースがあると、「図書室で調べてきます」と個やグループの学びに合わせた活動がしやすい。(小学校教諭)
- 様々な学習形態に対応できるよう、様々なスペースが欲しい。(小学校教諭)
- 調べ学習をする際に、図書でもPCでも調べることができるような教室があるとよいと考えます。(小学校教諭)

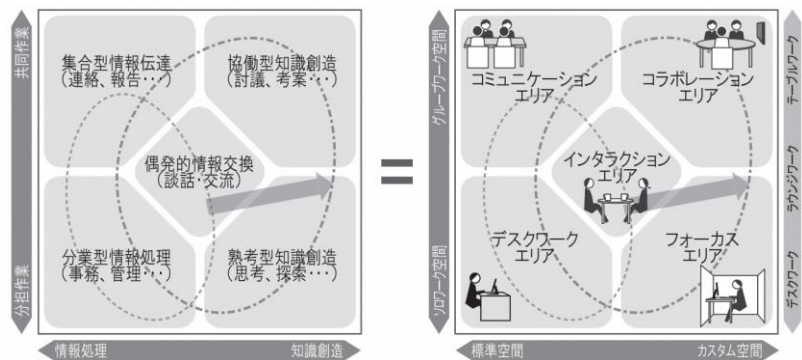
論点6) 教職員の働きやすさの向上と地域連携を推進する管理機能

学びを支える教職員や地域の協力者の活動を支えるワークプレイスを空間的に計画

- 教職員の多くが現状の職員室についてワークプレイスとして不十分であることを指摘している。執務スペースの広さはもとより、教員間でのコミュニケーションのためのスペースの確保などが求められている。
- また、職員室だけでなく、特別支援学級やステップ教室の担当教諭との連携が取りやすい配置上の工夫も求められている。
- さらに地域と連携した学習活動を進める上では、地域の協力者とのコミュニケーションを図るための場所も必要となる。その際、児童・生徒の個人情報保存される職員室との隔離も必要である。
- このことから、教職員や地域の協力者が学びを支えるための活動を行いやすい諸室のあり方を検討する必要がある。

業務を分担して同時並列で進行させることが効率的だった時代はデスクワークが中心であり、個人机が組織単位で整然と並ぶオフィスが適していた。

協働が求められるようになった現在においてはグループワークのための空間が必要であり、偶発的なコミュニケーションを誘発するエリアも求められるようになってきている。



作業内容の種類と適合したワークプレイス
(岸本章弘「組織を配置する空間」から「機能を配置する空間」へ)より)

職員室に関する教職員の意見

- 学年集団等に関係なく、人が集い児童の話ができる「談話」スペースの確保。(小学校校長)
- 小グループの会議がすぐに行えるような環境があるとよい。教科、学年、以外での会議にも呼応でき、数もあると理想的である。教材作成室など。(中学校校長)
- 特別支援学級の担任と通常学級の教員が交流しやすくなる配置ができるとよいです。(小学校副校長)

労務環境の向上に関する教職員の意見

- 職員室、校長室、保健室、会議室、警備室、さらには教職員の健康維持のため休憩室が必要です。(小学校校長)
- 職員室の中に給湯スペースがあるとよい。(小学校教諭)

地域連携のためのスペースに関する教職員の意見

- コミュニティ・スクールとして、地域ボランティアが集い、ミーティングするためのスペースが必要です。(小学校校長)

論点7) 複合化・共用化も見込んだバリアフリー化

法的に義務づけられたバリアフリー対応を超えたユニバーサルデザインの検討 既存施設の改築によらないバリアフリー対応方策の検討

- 学校施設はバリアフリー法によりバリアフリー対応が義務づけられるようになったため、改築に際してはバリアフリー化が徹底される。その上で、地域開放を考慮した場合の視覚障害への対応や、衛生に関する設備の充実など、法律上の義務を超えたユニバーサルデザインについて検討を要する。
- 一方、すべての学校施設を短期間に改築することは不可能であるため、既存施設のままバリアフリー化を図ることも求められることから、少なくとも段差解消については方策を検討する必要がある。

文部科学省では、①スロープ設置による段差の解消、②バリアフリースイートの設置、③エレベーターの設置を目標として掲げている。



東校舎の昇降口に設置されたスロープ



昇降口から屋内運動場への屋根付き敷地内通路



バリアフリースイート内部



バリアフリースイート内オムツ交換台



スロープの設置された屋内運動場の出入り口



男女別のトイレに設置された車いす使用者が利用しやすいトイレ



(学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組事例集)

論点8) 学校と地域をつなぐ、現実的かつ効果的な複合化・共用化

学びにとって意義があり、学校運営に支障のないWin-Winの複合化・共用化を検討する

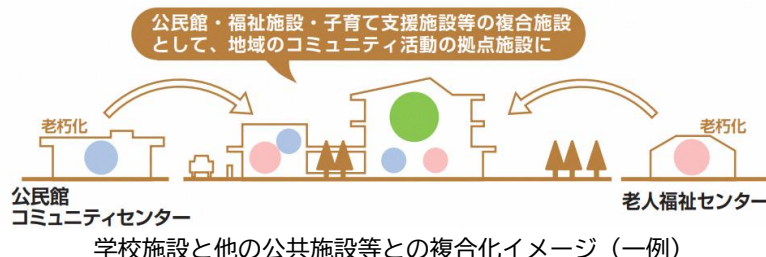
- 学校の立場では、児童・生徒の学びにとって意義があると捉えている場合には他施設との複合化について前向きに捉える傾向があると言える。学校施設への他施設の複合化が望まれるなか、地域や他世代との交流、学校教育において活かすことのできる設備や人材等のリソースへの期待など、学びの観点から複合化について検討する必要がある。
- 一方、児童・生徒のプライバシーや安全、防犯上の懸念が示されてもいることを踏まえ、教室と複合化された施設や共用される諸室との区分に関する空間的な検討とともに、施設管理について組織面での検討も必要である。

文部科学省が公表した報告書「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」では、公共施設マネジメントが求められるなか、学校施設の複合化のニーズが高まっていると指摘している。

そのなかで学校施設の複合化において重視する点として次の5点を挙げている。

- ・ 学習環境の高機能化・多機能化
- ・ 児童生徒と幼児や高齢者など多様な世代との交流
- ・ 学びの場を拠点とした地域コミュニティの強化
- ・ 学校の教育活動等を支える専門性のある人材の活用
- ・ 効果的・効率的な施設整備

これらによって学校教育と地域の双方にメリットのある複合化が望ましいとしている。



複合化・共用化のメリットに関する教職員の意見

- 乳幼児や高齢者等との交流ができる機会が増えることで、共生についての学びが展開しやすい。(小学校校長)
- 様々な人々が学校を拠点として活動されることにより、様々な方々が教育活動に協力していただけるのではないかと。(小学校校長)
- 例えば図書館があれば、専門的な支援を受けることができる。体育館がスポーツセンター的な使われ方をするようなら、インストラクターの専門性を学校の授業にも活用しやすくなる。(小学校校長)
- 福祉施設と一体化することで福祉的な観点からのケアが充実する。(小学校校長)

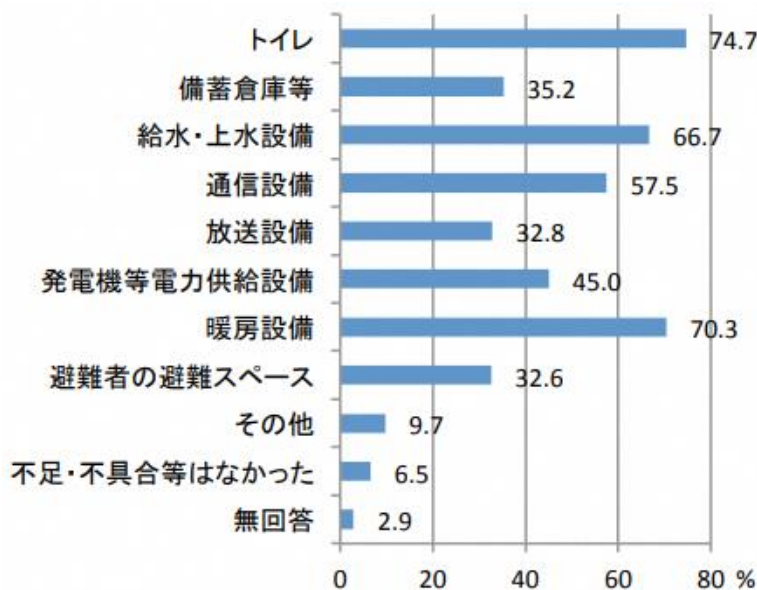
複合化・共用化のデメリットに関する教職員の意見

- 不審者等の対応が万全か、不安な面がある。(小学校校長)
- 教育活動に制限が出るようなことがないようにしたい。(中学校校長)
- 学校施設を大いに開放する方向が求められていると認識する。ただし、管理を学校から切り離すことが必須である。学校の施設を使用する方策ではなく、別の組織が管理、運営する仕組みをつくる。(中学校校長)

論点9) 避難所としての学校施設

児童・生徒や地域にとって安心・安全な避難所としての体育館を計画

- 小・中学校は指定避難所に指定されており、体育館は被災時には避難者の受け入れが求められる。しかしながら、学校の立場では、空調・電気設備・情報回線の不足、備蓄の不足、バリアフリー化の不徹底など課題が指摘されている。
- 一部学校においては災害リスクのある立地であることも課題であり、学校自体の防災・減災上の工夫や災害回避も含め、避難所として備えるべき機能について検討する必要がある。
- さらに、避難所運営における学校、地域、行政の役割分担についても懸念が示されており、学校施設の複合化・共用化と同様に組織面での検討も必要である。



避難所で問題となった施設・設備

(文部科学省「東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究報告」より)

避難所としての設備等に関する教職員の意見

- 避難所の暑さ・寒さ対策・電源（自家発電設備）、電気（停電になったときの夜間）情報回線（電話等）の不足・トイレ（絶対的に数が足りない。ライフラインが止まると水洗トイレの機能が低下）（小学校校長）
- バリアが多くあり、障害のある人、高齢者に避難には不適合である。停電時の予備電源が十分でない。（中学校校長）

避難所としての運営する上での組織に関する教職員の意見

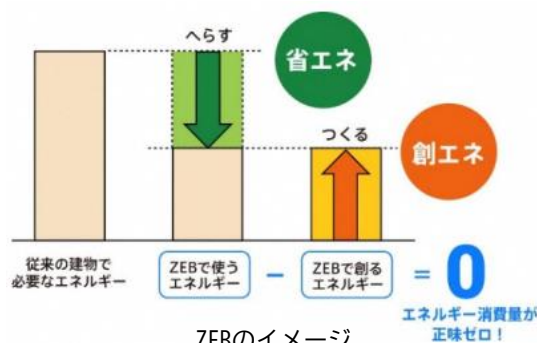
- 避難所に指定された場合、教職員は児童の指導等に専念すべきだが、実際にその状況になった場合は、場所を長期に提供したり避難所の運営にも携わったりする可能性が高いため、行政、地域との役割分担を明確にし、運用する必要がある。（小学校校長）
- 教室掲示等の情報や子供の私物等の紛失がないように考えていく必要がある。どこの教室から避難場所にするか、問題になる。（小学校校長）

論点10) 快適性向上と環境負荷軽減を両立した設備

児童・生徒や教職員にとって快適な施設であるとともに環境にやさしい設備を計画

- 教職員から照明の暗さや空調の不備について指摘されている。心身の健康や学びの質の向上のためにも屋内環境の向上は求められる。
- 一方で、近年の地球環境に対する懸念を踏まえると環境に負荷の少ない設備であることも求められ、またそのような設備があることで児童・生徒の環境意識を醸成することも期待される。さらに環境性能の高い設備はランニングコストの適正化にもつながることが期待され、持続可能な施設管理が可能となる。
- これらを踏まえ、学校施設における省エネ・創エネを推進する設備について研究し、エコスクールの実現に向けた検討が必要である。

2050年カーボンニュートラルを目指す上で、環境負荷を低減のため、建物に対してZEB基準が求められるようになってきている。ZEBとはNet Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略であり、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建築物のことをいう。特に学校施設は基礎自治体において保有量が多いことから、断熱化、空調・照明設備の高効率化による環境負荷軽減が求められる施設である。



学習環境に関する教職員の意見

- 教室の照明が昔ながらの蛍光灯である。少し暗いと感じる日がある。また、大型テレビを見せるときに反射で光ってしまう。しかし、電気を消すとメモをとるには暗くなりすぎてしまう。そのようなことを考えると教師がリモコン等で明るさや色合いを調節できるような照明になるととても便利だと感じる。(小学校教諭)
- コロナのこともあり、換気・空調施設はせめて、一つの教室でスイッチのオンオフ、調整ができるようにしてほしい。(小学校副校長)
- 特に空調がきかない。熱中症予防、安全な環境を確保したい。(小学校副校長)
- 換気については、冬も窓と廊下側の扉を開けているため寒く、コートなど着用したまま授業を受けることもOKとしているが、動きづらい。換気のシステムがあるといい。(中学校副校長)